

4 市町におけるケーススタディ

農業用水路やため池などの農業水利施設を、消火用水や生活雑用水として利用する場合の問題点、農業水利施設を管理する水資源機構や土地改良区と市町村との連携・連絡体制のあり方等を検討し、緊急時に役立つよう、具体地区において事例検討(ケーススタディ)を行います。

ケーススタディでは、県内を網羅し作成した電子地図情報「緊急農業水源マップ」を、市町村が地域防災計画等に盛りこむ際の参考となるよう、5市町(豊川市、安城市、大府市、尾張旭市、大口町)をモデルケースとして実施します。

平成15年度から16年度にかけて進めているケーススタディでは、地域防災を担う機関が利用しやすい地図情報となるよう、市町の防災・消防部局を交えて検討しています。

平成15年度に行った尾張旭市のケーススタディでは、農業水利施設が持つ潜在力を表すために、災害時の消火活動に貢献可能な範囲を図化したところ、消防部局から、ため池の利用について特に強い関心が寄せられました。(これまで、尾張旭市内のため池は消防水利に1つも指定されていませんでした。)

また、市内に点在する12の避難施設(小中学校)のうち9か所が農業水利施設に隣接しており、避難施設を守る消火用水や避難生活における雑用水としての利用が有望であることが判明しました。

現在、大府市において災害時に必要とされる消火水量と77か所の農業用ため池の貯水量との相関や、緊急輸送道路を利用したため池の水の移送の可能性を検証中です。

さらに、平成16年度は残る3市町において、

安城市：農業水利施設に残存する水量の予測、既設分水口などの利用方法、既設消火施設の管理上の問題点や地震災害時の有効性

豊川市：ファームポンドや自己水源(井戸)の利活用方法や有効性

大口町：市街地と農地の区分が明確な地域での農業水利の有効性、冬期の利活用方法

の検証を進める予定です。